



行動しよう・前進しよう！ Weekly Report

2016-17 年度 第 21 号

第 23073 回例会

追悼例会

1 月 職業奉仕月間

日 時：平成 29 年 1 月 25 日（水）

会 場：例会場

司 会：SAA

開会点鐘

斉 唱：ロータリーソング「日も風も星も」

お客様の紹介

会長挨拶

例会が 2 週間ぶり、皆さんにお会いして久しぶりだなと感じています。きょうは、応援していた稀勢の里が横綱になり、朝から伝達式をしっかりと見て、「横綱として恥ずかしくない様に精進をします」と口上を述べていました。本当に立派な横綱になって欲しいなと思っています。19 年ぶりに日本人の横綱で新春早々嬉しいことであります。

幹事報告

喜連(元)幹事

●今年度、社会奉仕委員会で検討して新しいデザインのランドセルカバーが出来上がりました。回覧

●17-18 年度 補助金管理セミナー

日時 2 月 8 日（水）10 時～12 時 30 分

場所 ハイアットリージェンシー東京

出席 17-18 年度 小澤会長・寺澤幹事

村上ガバナー補佐・山崎グループ幹事

●第 2 回地区ロータリー財団セミナー

日時 2 月 8 日（水）14 時～16 時 30 分

場所 ハイアットリージェンシー東京

出席 内山会長・喜連幹事・青木 R 財団委員長

伊藤達弥地区委員

●第 40 回くにたちさくらフェスティバル実行委員会

開催日 1 月 25 日（水）・2 月 13 日（月）

3 月 2 日（木）・3 月 21 日（火）

出席 杉田社会奉仕委員長

●東京国立白うめ RC 第 1000 回記念例会

日時 2 月 6 日（月）18 時 30 分

場所 立川グランドホテル

出席 内山会長・喜連幹事

●東京武蔵国分寺 RC 創立 25 周年記念例会

日時 3 月 6 日（月）17 時

場所 パレスホテル立川

出席 内山会長・喜連幹事 次行に続く

●地区「奉仕のつどい」情報交換会

日時 3 月 7 日（火）13 時 30 分～17 時

場所 港区赤坂区民センター

奉仕プロジェクト委員会の関係者はじめ、関心のある方は是非出席してください。

●年会費は 1 月末までに振込をお願いします

委員長報告

●広報・IT 委員長 横断幕の撤去を例会後に行います。ご協力をお願いします。

◆会員増強賞の授与

林 幸司会員の推薦者 秋廣道郎会員

川向輝樹会員の推薦者 岡本貞雄会員・近藤佳子会員

「新会員の入会にあたりスポンサーとして多大なる貢献をいただきました。その業績と熱意に会員増強賞としてスポンサーピンを贈呈し厚く感謝の意を表します」

第 2750 地区ガバナー 大槻哲也

クラブサポート委員長 梅渾武男

会員増強委員長 田中 隆

出席報告

小川出席奨励委員

1 月 25 日 在籍 46 名中 出席 40 名

前々回(1 月 11 日) の出席率 95.45%

閉会点鐘

内山会長



RI 第 2750 地区 多摩中グループ
東京国立ロータリークラブ

会長 内山健治 幹事：喜連元昭

例会日：毎週水曜日 例会場：谷保天満宮社務所 2 階 東京都国立市谷保 5209

事務所：東京都国立市谷保 5234-1 TEL:042-575-0770 FAX:042-572-8666

E-MAIL: kunitachi-rc@sage.ocn.ne.jp WEB: http://kunitachi-rc.com/

会報委員：大庭敏也・秋廣道郎・遠藤常臣・伊藤達弥

故宗村勝三会員追悼式

■追悼式次第

1. 黙祷

1. 追悼の言葉

内山健治 会長

岡本貞雄 会員

1. 献花

1. ご遺族挨拶

1. お食事

■開 式

司会：喜連元昭幹事

ただ今より、故宗村勝三会員の追悼会を開式いたします。故宗村勝三会員は、平成28年12月22日にご逝去されました。ご家族の悲しみは如何ばかりかと、お察し申し上げます。また、当クラブにとりましても、かけがえのない人材を失いました。

故宗村勝三会員の、クラブでの業績、そして人となりは、後で語られますので省略いたしますが、はじめに故宗村勝三会員の在りし日をしのび、ご冥福をお祈りして、黙祷をささげます。

■追悼の言葉

会長 内山健治

故宗村勝三会員の遺影を前に、クラブを代表し謹んで追悼の言葉を述べさせていただきます。

宗村さんの突然の訃報に接し非常に驚きました。亡くなる数日前に電話をしたときには、娘さんが出られ、「今、本人はできませんが、あとで連絡をする」と父は言っております。との言葉と共に、現在体調が思わしくないので例会には出席できない旨伺いました。その数日後に亡くなったと聞いたときには本当に信じられませんでした。ここでは、宗さんと呼ばさせていただきますが、宗さんは奥様を4月に亡くされて弱っていたのでしょうか。例会でお話をする中では感じられませんでした。心に痛手を負っていたと推察するところです。クラブでは辛口の意見が多かったように思いますが、クラブフォーラムでも率先して意見を言っている姿が思い出されます。直近では11月2日の週報に寄稿された会員情報コーナーでニコニコボックスの在り方について指摘をされており、会長として深く共鳴したことを憶えております。

宗さんの入会は昭和61年6月4日となっておりますので、30年間在籍したことになります。驚くことは入会3年目から委員長を務められ、また在籍30年のうち3分の2にあたる20年もの間、理事をはじめ各委員会の委員長を務められております。2001～2002年度には、佐伯重介会長のもとで幹事として活躍をされております。いかにロータリー精神を持って行動し、ロータリ



一の真髓を理解されていたかと思います。宗さんの辛口の意見をもう少し聞きたかったな、と残念でなりません。

宗さんの趣味が私と同じ狩猟、クレー射撃でありましたので、よく射撃場でご一緒しました。直立した不動の射撃姿勢で、撃つ姿が臉に浮かびます。「今日はどうもここがよくないな」「今日はいくつも当たるな」「姿勢がまとまらないな」とか射撃の議論をしたことが思い出されます。府中のクレー射撃連盟の会長も長く務められ、クレー射撃の普及に尽力されたことも忘れることは出来ません。

宗さんは一見とつきにくそうではありますが、内面は温かい心の持った、優しさのあふれる人柄でした。これからは奥様とゆっくりお過ごしください。

本日、故宗村勝三会員の追悼例会を開催するにあたり、宗村さんのクラブにおける業績と在りし日を偲んで、心からご冥福をお祈り申し上げ追悼の言葉と致します。どうぞ安らかに眠りください。

合掌

■追悼の言葉

岡本貞雄

故宗村勝三さんの遺影を前に、東京国立ロータリークラブの友人を代表して謹んで追悼の言葉を申し上げます。

宗村さん、あなたは今年の11月ごろからクラブの例会に欠席されておりました。どうされたかと、みんなで案じておりましたら、年忘れ家族例会の時に内山会長から「宗村さんの容態が悪い」ことを知らされました。そして追いつけかけのように、翌日の12月22日に逝去されたという知らせを受け取りました。急な事で、未だに信じ難く、ただただ悲嘆に暮れております。

宗村さんはこの年の4月に最愛の奥様康子さんを、間質性肺炎で亡くされました。三田浩一さんもこの病気で亡くなりましたが、現在のところ治療方法も確立していない難病だということは伺っておりました。奥様が病に倒れる以前にも、宗村さんはいく回か大病を患い、長期間休会することがありました。退院した時に私が病状を気遣うと、宗村さんは大病を克服したこと



を誇るように元気を強調していました。

その後、間もなく奥様が発病し、ご自身のことはさておき、奥様の看病に全力を注がれました。厳しい状況によく耐え、忍んだその気力は、さすがに粘り強い越後の人だと常々感銘を受けておりました。

宗村さんは例会場ではいつも私の左隣に座ります。奥様を亡くされてからも私はいろいろと慰めの言葉を申し上げましたが、宗村さんは意外と達観されていて、奥様のことを「洋裁が得意で、家ではいつもミシンを踏んでいた」など、悲しみを超えた穏やかな心境を語ってくださいました。「僕もすぐに逝くから待ってろ」そんな言葉を病床で奥様に言ったのかもしれませんが。あとを追うように逝ってしまった宗村さんは本当に幸せ者だと、今になって私は思うようになりました。

ところで、宗村さんは昭和61年6月にロータリーに入会されました。そして2001～2年度、佐伯重介年度に幹事を務められました。この年度は、それまでに経験もしなかった難題に直面し、宗村幹事は八面六臂の働きでその存在感を示しました。

まず、3月の中旬には事務局の森川さんがくも膜下出血で倒れ、年度の後半は勤務することが出来なくなったことです。直ちに臨時の職員を補充し、その指導を兼ねながら宗村幹事は毎日事務局にいて実務に没頭しました。それと同時に事務の合理化にも着手しました。事務所内の整頓、事務のデジタル化。そして本来あるべき理事、委員長の職務の遂行など、事務局任せを改善するために私たちにも厳しい態度で臨みました。また、年度末には8名もの会員から退会届けが出て、会長・幹事はその慰留工作に奔走したこともありました。結果的にこの年度は4名が入会し、12名が退会しましたが、事務局の病欠に合わせて宗村さんは年度の後半で大変なご苦労をされました。

近年の宗村さんは、この幹事経験から、また在籍30年のキャリアから「ロータリアンはかくあるべし」という、指導的な立場でクラブに貢献されていました。このように、宗村さんは30年にわたって当クラブの発展に尽力し、奉仕の理想に邁進されたことはクラブの誇りであり模範でもあります。創立50周年を目前にして宗村さんを失った損失は誠に大きいものがありますが、今後は浄土から私たちのクラブと会員とをお守りくださるようお願いいたします。

なお、本日の追悼例会にはご家族の方は出席されておりませんが、宗村さんがロータリーで活躍できたのも奥様をはじめ、ご家族の皆様のご理解があったればこそと、改めて御礼を申し上げます。

宗村さんの思い出として、私はあの特異な文体が心に残っております。例えば「梅雨空の中『笑顔』で本日参加された会員皆様に、心から感謝申し上げての祝杯であれば、『益々発展なる奉仕活動間違いなし』の菅公様のうれしい言葉がありました」など、隷書体のお好きな宗村さんらしく、実直な性格が各所に表れる「宗村節」が私は好きでした。

ところで宗村さん、私はあなたの葬儀に参列して宗派が浄土真宗大谷派だということを知りました。私も大谷派の門徒なのでとても親しみを感じました。浄土真宗では、故人は臨終と同時に浄土に往生することになっていますので、今頃はお浄土で最愛の奥様と再会

し、安らかな眠りについていることでしょう。

ただ、宗村さん。私も後から行きますので、例会場の時のように右側の席は明けておいてください。そして楽しいお話をたくさんしましょう。

宗村さん、永いこと本当にご苦労様でした。そしてありがとうございました。



■ご遺族ご挨拶

お手紙を代読（幹事）

拝啓 先日は年末のお忙しい中、宗村勝三の葬儀にご参列頂きまして誠にありがとうございました。また、受付のお手伝いも賜り、感謝申し上げます。

わたくしども家族だけではどうする事もできず、有り難くご厚意に甘えてしまいました。お手伝い頂いた皆様にきちんとお礼も申し上げず、大変失礼をいたしました。お蔭様で葬儀式一句を無事に了えることができました。

幹事の方より、宗村の追悼を行っていただくことを伺いました。父へのご厚誼への感謝を皆様へお伝えしたく、お便り申し上げます。

葬儀に先立ち、お寺の導師から法名の参考に「故人はどのようなことをしていた人か」と聞かれ、「家族や仲間を大切にしていたこと、ロータリークラブに所属して活動していたこと」という旨を伝えました。

そこで頂いたのが「釋 勝友」という法名です。名前から「勝」の一字を取り、友情の「友」という字を加えて「家族、友人、仲間を満たした人」という意味をあらわすそうです。

父はロータリークラブでの出来事や会員の皆様のことをいつも楽しそうに話していました。皆様と過ごす時間を本当に楽しんで、誇りに思っていたのだと思います。昨年末に体調を崩した際に、クラブでの活動や思い出を振り返りながら退会届をしたためていた姿が印象に残っています。まだまだ続けたいという想いと皆様にご心配をかけたくないという想いがあったのではないのでしょうか。良き仲間を思っていたのではないかと思います。

私たちも父のように、家族、仲間を大切に過ごしていきたいと思えます。

末筆ではございますが、東京国立ロータリークラブの皆様の益々のご活躍をお祈りいたします。有難うございました。

敬具

平成29年1月

宗村光祐

家族一同

